（第二種）（明治卅一年五月九日第三種郵便物認可）　昭和十四年三月三十一日（金曜日）　臺灣日日新報　第一萬四千二十二號　（一）

臺灣昌新報夕刊
三月三十日
編輯兼發行人 人行政會制
地番家附目下例町榮市北番
社報所月日發第 所行發

海南島敵本據を
海鷲が急襲爆砕
甲子市や新吳市など

【○○發上二十九日發同盟特電】われ海の要衝○○島は南日前約百浬に位置し二千九百年前の昔より南支那海の覇権を握る絶好なる地点として南支那海の覇権を争い幾多の興亡の歴史を繰返して来た島である、現在は○○軍の南方作戦の重要なる基地として○○軍の手に確保されてゐるが、この島の敵航空勢力は○○軍の南方作戦に対する重大なる脅威であるので、○○軍航空部隊は二十八日朝来この敵航空勢力の撃滅を目的として○○島の敵航空基地に対し猛爆撃を加へた、即ち二十八日午前○時○分○○島甲子市の東北東約八浬の上空に達した○○軍航空部隊は敵戦闘機約二十機の邀撃を受けたが、これを悉く撃墜し、更に進んで

南昌へ南昌へ

(上)南昌車站占領の利那
(下)我が砲撃で南昌市街は忽ち業火

—陸軍省許可濟—

學徒部隊長の殊勳

敵使用の毒瓦斯性能を見破る

恩を仇で返す留學生

國を擧げてァ號の乘組員を歡迎

歡迎委員長に金子伯

今年から『愛馬の日』

來月七日を記念日に

宋一家に怨嗟の聲

飢饉を機に飯米を買占め

抗戰は彼等の錢儲け

大阪商船航路が愈よ海口に寄港

その第一船は盤谷丸

昆明目抜きの大火

主要建築物悉く烏有

蘭貢の倉庫には援蔣武器が山積

噴飯、匪賊に掠奪さる

雜貨屋さんもアイウエオ

北京に昂る日語習修熱

これは珍なる手段

逃亡防止に眉毛を剃り落す

廈門の奥地で壯丁募集

文化的の提携

比島と緊密に〃

森忠平氏の歸來談

田中光顯翁に

叙位の御沙汰

白衣の勇士歸る

臺北州皇軍慰問團の

海南島班近く現地へ

五日高雄出帆の便船で

取締り峻嚴で華僑ら引揚

遥羅から汕頭方面へ

高千穂丸入港

今晩の映画

病への食物

長江なが

一円の傑作盤

ミースカメラ
ヤラクシラードムーリク
下手も上手もありません!
白粉代りに、白粉下に、生きた美肌の即製です!
切手八セン
ドーコレクチイテ推奨盤
花散る校庭
滿洲娘
身代り警備
君チャイさん
伊豆椿油香
REGAL
ドーコレルガーリ アビムロコ
脇坂部隊
泉詩郎の愛馬進軍歌
浪花節
女の歌

學窓を巣立つ若き女性たちへ

慢然と結婚を待つ勿れ　時局は職業への進出を要望

全國女教員會理事　竹田菊

「頭の光」の點に惑られて學窓を巣立つ若き女性諸君は、いよ〳〵これから新しい人生へのスタートをきる訳になるわけですが、今日の親たち社會制度では、その點といふ點なものをハッキリ指導することが出來ないので悩みがあります。この悩みは若い女性にのみ限られたものではなく、今日の一般社會一般の悩みとでも云へるでせうが、特に若い人は制度がないだけに、これが解決になりつつあります。女學校を出て、上級學校に進むことは、これに越した點はなく、今後女性は大いに高等教育を受くべきであり、これからの教育は女性の特質教育が必要になつてくると思ひます。けれども、この點は女學校教育者の中にもこの點の人々で、大部分は家庭に居つて結婚を待つとか、職業に就いて家庭に歸り得かですが、今日のやうな非常時にあつて、ただぼんやりと結婚を待つといふのは決して賢明な事ではありません。それに代つて婦人の職業への進出を望してゐるのですから、職業も女性の領域の一部も婦人でも出來るものを選ぶのもよいかと思ひます。

例へばタイプ・ライター等は今日では婦人專門になつてゐますが、それは婦人の方が男子よりも辛抱強いからでせう。

婦人が職業戰線へドシ〳〵進出してゆく今日の情勢に於て「婦人と家庭に還れ」といふことは相反する如く考へられもしませうが目下の社會の情勢からいつて家庭なることでありそれを阻止しようとしても出來るものではありません。また女性が結婚前に職業に就いて實際に社會を見ておくといふことは、將來家庭生活をする上に非常に役立つものと思ひます。それに、家庭をもつても職業に就いてゐることも差支へないものですから婦人も出來るだけ職業にいた方がよろしいのです。家庭にあつて家事と結婚を待つてゐるといふことは今日に於いては決してよいことではないと思ひます。

至極便利な
新日本人服（2）
訪問着。昨日の袖服と比べて見て下さい。

これ等も勿論結構ですが、今日新しい婦人の職業として望まれてゐる數種の職業に進出した方がよいと思ふのであります。

×

今までは、婦人は男子より頭が低能でないからこの方面には向かないと考へられてゐましたが、婦人より頭の悪い樣な男子でもこれをやつてゐるのですから婦人向かねことはなくある點では婦人にそれが好適とは思はれますから、この方面へ今後婦人の進出が望まれます。

婦人が職業戰線へドシ〳〵進出してゆく今日の情勢に於て「婦人と家庭に還れ」といふことは相反する如く考へられもしませうが目下の社會の情勢からいつて家庭なることでありそれを阻止しようとしても出來るものではありません。また女性が結婚前に職業に就いて實際に社會を見ておくといふことは、將來家庭生活をする上に非常に役立つものと思ひます。それに、家庭をもつても職業に就いてゐることも差支へないものですから婦人も出來るだけ職業にいた方がよろしいのです。家庭にあつて家事と結婚を待つてゐるといふことは今日に於いては決してよいことではないと思ひます。

結婚を待つるといふのは決して賢明な事ではありません。それに今日は、所謂「男ごでり」で結婚も思ふに出來ないのですから、むしろ、一つの職業の技能習得しておくことが一番必要であると思ふのですそれに時局は男子

御飯を上手に炊くには

理論的に研究し改良しませう

よく世間で「飯も酒に炊けない」と不平を夫から聽に、夫からも女中に、さては親が娘に嫁かけます。毎日炊く御飯がこれ程かし、或は焦げたり生煮えだつたりするのはまゝなら如何の甘比喩に使はれるほど平常有り勝ちなものです。けれども、炊き方一つで決して夫からも主人からも叱言をいはれずにすむのであります。

そ　の方法としては、米はなからこしらへ、然る後水の中に入れる時は重曹を一摑位加へて煮ると甘味を通して柔に浸してから、よりも適宜に膨んで摑摑米でよく洗つておいて、別に鍋にたつぷりお湯をたぎらせてその中に粉を水で適當の柔かさに捏ねたのを一握り位づつの大きさに握つて折込み、よく煮ます。中まで煮へ通つたのから自然に浮き上ります。

そ　れを網杓子で掬ひ上げて前に用意しておいた草の中にいれて熱いうちにせつせと摑木で摑摑つた時に、手に水をつけながら刀を入れて手で摑ねるのです。丸める形は好みのままで、硬なり、きなこなりでお好きのやうにして食べます。

△

御飯を炊く時釜の底には米が並んで接觸し米粒との隙間には水が充たされてゐます。釜底がさうなつてゐますと、御飯の下の方は水が多過ぎて柔過ぎ、上の方は水が少な過ぎて硬過ぎるといふ樣な事になります

開花三世相

(438)

村松梢風作
中一彌畫

上野總攻め(一)

官軍の上野総攻撃は五月十五日早朝から開始された。官軍の総指揮官は大村益次郎で、御成街道、湯島口、團子坂の三方面から、上野山内へ向つて大砲を撃ち込んだ。

今日も朝から雨に雨が降つてゐる。寒い、絶い、大砲の音が時々自分の身をそちこに驚つてゐる。

御成街道の官軍は薩長の精鋭であつた。彰義隊の方では黒門を防ぎ、我の辺に砲を結つたり土俵を積み上げたりして防禦に當つてゐるので、官軍は用捨なく砲撃した。併し彰義隊も死力を盡しての防戦だから官軍も一歩これを突破することはできないのだ。

彰義隊の中にも幕臣旗本の連中があつた。彼等は門外へ駆り出し槍刀振りかざして官軍の陣へ斬込んで来たので、隊所で自分の隊が二回となく、三回となく入れ代つて来るのを相手にして、これを撃退した。

山縣狂介は黒小路の山城屋という吉原の一の朝の宿来に氏丸を抱きて寝ながら時々起き上つて来る傷兵から報告を聞いたり命令を傳へたりしてゐた。

併し官軍と彰義隊とは兵数に於いて絶対の差があつた上に、兵器の点でもまく比較にならない。官軍は小銃はもとより、大砲も湊山待つてゐるのに反して彰義隊は真合の奏だから大砲などはなく、小銃とても様々で、少しいのである。大多数が槍と刀で戦ふ程度だ。だから官軍の首脳者としては、彰義隊と交戦する時間だけ予定期間になつてゐたのである。もし今日中に上野を占領することができなくて、夜になるやうだと再び私宅である。彰義隊と通撃する徒党が夜に入れば蜂起するかも知れない。そして江戸市中に火を放つ計略だといふ噂もある。

西郷だけでなくそうした事実を重視してゐるものが薩山にある。万一其の計略の通り江戸を焼き拂つて各所に伏兵が起つたなら、いかに官軍が優勢でも大苦戦に陥ることは免れない。

新篇掌線祕話

(中)

植原路郎

掌線研究については、東西列字の研究者の述作を綜合すれば、その基本的な資格件は、全體の形状、頂の形状、爪の線の形状方向等であるが、一般に手相と称してゐるものは、この中で特に掌の線だけを取上げて考査するものを指すのである。しかし、掌線を基本として、その人の性格、頭脳の働らき、才能の有無等を鑑定する場合には、ただいはゆる手の脳に依るだけでなしに、前記各項目を參照して、それに一つの總まつた統計を得て、初めて完全なる鑑定が出来るのである。

×　×

さて、前に紹介したやうにヤベンハムの研究によつては、いまだ深く研究の進歩を見ないやうであるが、それでも手の脳たる掌線(いはゆる手の脳)に及んでゐる。その両者の説を綜合して、そこに、形状基本を求めるならば、(1)幾何的、(2)線的、(3)活動的、(4)実際的、(5)思索的、(6)組織的、(7)原始的この七種に分類してゐる。而して、この形状分類基本は主として、その人の性行、智能技藝等を考察する資料となるものであつて、多少なりとも、この知識を頭へてゐると、日日の就交上に於て、益々ところが少くないやうにおもふ。また、手の脳たる掌線それぞれについて多くの資料を提供する掌線とはなる、運気判断ともいふべき多少鑑定的見解——(鑑定があるかも知れぬが)——を加へるに於ては、むしろ積極的方面に向つた場合に於ては、感情自ら発動を表現する。

★土星丘の發達は、感情自ら発動を表現する。

★水星丘の發達は、敏捷性、機智力、弁舌力の敏越してゐる点を示し、同時に、これの外交手腕の優勢を現はす。

★太陽丘の發達は、功利的方面に於ては名誉利祿への慾望熾盛を極め、名声を求める念じきりである。

★火星丘の發達は、積極性を意味し、勝利本能、活力の強烈等の如何を現はす。

扇雀一行けふ着臺

臺北州一日から開演

三十二日から臺座で開演する歌舞伎中村扇雀一行は三十日の高千穂丸で着台した。着上厳重人合分會より配

出征軍人遺家族慰問映畫會

十二日公會堂で

台北市婦人會主催の出征軍人遺家族慰問映畫會は四月十二日午後一時より同四時、午後六時より同九時の二回に亘り市公會堂に於て二大ミリトーキーに依る出征軍人遺家族慰問映畫會を催す由、尚入場券は在鄉軍人各分會より配布されると

今週の映畫

海の若人

州一日から圓際館

監督はサム・ウッド、撮影はジョン・サイツ、出演者はロバート・ヤング、ジーン・スチニワート、トム・ブラウン、フローレンス・ライス等である

一種機ロジャー・トラック・リチヤードの三人はそれぞれ社會的地位を異にする家庭の出で、性格もそれぞれ異ふが、アナポリス海軍兵學校に入學して三人は終友となつた。ロジャーは富裕な家庭で過去數年來自活して來た青年で彼の入學の野心の一は海軍將校に憧れる高貴な家庭の娘と結婚することであつた。リチヤードは社會的にも有名な金持の息子で海軍の傳統とその精神に深い尊敬を抱いてゐた。トラックは二重橋の乘組員であつたが堅實な彼の精神を認められ彼の多年の宿願が達して入學した青年であつた。三人は入學後親しい仲となつた。リチヤードがクリスマスの休暇に級友を自宅に招待した時、ロジャーとトラックはリチヤードの美しい妹パトリシアを見て互に彼女を戀してゐた。

自分れの強いロジャーは彼女が自分を愛してゐると信じてゐたがトラックを愛してゐるのを知つて多少腹を立てたが、リチヤードの家族の前でそれを表面に出すことを好まなかつた。ロジャー、トラック、リチヤードは隊隊の名誉をあつた。トラックとリチヤードはかつて軍艦内でコーチから単獨の短艇を託されふてくされて泥棒し元コーチだつたドウスに叱られ辛らくて彼艦室で不名證のために退校となつた海軍將校の話に感激トラックがその話を否定し真相を暴露しての將校に自分の父で自分の本名はジョン・クロス・カーターであることを打ち明けたので傷名で入學した後登校を禁ぜられた。年行月の卒業との對抗試合が迫つた際の父の死名は突發登校を許された彼の父の死名も受けられた旨の通知とうけたトラックは他の二人の友達と一緒に出て見事勝敗をあげた——同時上映はジャン・バル・ジャンにである

今週の映畫

わかもと映畫大會

州州一日の兩日公會堂で

わかもと名称年催のわかもと映畫大會は二十、三十一の兩日午後七時から公會堂で開催するがプログラムは次の通り

武漢作戰記錄大砲の花嫁、蘇州の悲劇、女性職業戰士、だんごの行方(漫画)、世界の感激、坂田剛門(漫画)、インディの大陸横斷なほ、わかもと愛用者の證として入場券にわかもと容器を添へて持參の者に限り入場無料、その他は整理料を要する由

臺日漢詩壇(一)

選者　魏清德

過鯤後海感懷原韻呈生宅叱星

五十風塵洲
林府尚留秋。郊外興有餘。主人何
處在。空對水悠悠。

城南風景好。乘興到幽亭。何日三
間屋。從君隔下青。

不到數多久。荒花處處開。清秋松
下路。頻自復徘徊。

雖得郊居好。終化復作詩。幾經座
下石。坐到夕陽移。

元日書懷　余禹森

晨興看雲霞。深宵守歲歸。爆竹驚殘夢。
桃符換舊扉。一年從此始。萬事願無違。
客門今多訪。如何拒客心。千秋金鏡鑑。好共作方針。

一歸十餘年。高低唐百首。詩心與
子論。聚會望幸甚。

宗臺珍藏書畫展覽會即興　魏清德

城南風雅好。萬古永相傳。何日三
間屋。從君隔下青。

林府尚留秋。郊外興有餘。主人何
處在。空對水悠悠。

不到數多久。荒花處處開。清秋松
下路。頻自復徘徊。

雖得郊居好。終化復作詩。幾經座
下石。坐到夕陽移。

元日書懷　余禹森

晨興看雲霞。深宵守歲歸。爆竹驚殘夢。
桃符換舊扉。一年從此始。萬事願無違。
客門今多訪。如何拒客心。千秋金鏡鑑。好共作方針。

一歸十餘年。高低唐百首。詩心與
子論。聚會望幸甚。

宗臺珍藏書畫展覽會即興　魏清德

カナ文字ニュース

▲中支那ノ武漢ヲトリカコンダワガグン、二十九ノアサヤケコレヲセメオトシマシタ。

▲ワガカイグンノヒカウキガ修水センセンノテキヲ、バクゲキシタトキノコトデス。鈴木大尉ノヒカウキヘテキヘイニバクゲンノアメヲフラセ、リフバナテガラヲタテマシタガ、テキノウチダスタマガ大尉ノヒカウキニアタリ、ヒカウキハミルミルウチニモエダシマシタ。ヒニクワマレタ大尉ハスコシモアワテティデ、テヲフリナガラオトモダチノヒカウキニサヨナラヲシマシタ。サウシテガラヲタテテ、センシナサッタヘイタイサンガタノキコツヘケフゴコニ二時オトモダチノヘイタイサンガタニマモラレテ、ナツカシイ臺北ニムゴンノガイセンヲナサイマシタ。ワタクシタチハミクニノタメニヘタライテ、メイヨノセンシヲナサッタヘイタイサンガタノゴオンヲヽイツマデモワスレナイヤウニイタシマセウ。

▲ヨーロバノスペインヘクニノナカガ二ツニワカレテ、ナガイアヒダアラソヒヲヲブケテキマシタ。タダシイカンガヘノフランコグンハテキグンガタテコモヲテキタマドリツドヲトリカコミタウトウコレヲセメオトシ、二十八日サカンナニフジヤウシキヲオコナヒマシタ。

イゴヲトグマシタ

扇雀の將軍家光

商況(三十日)

臺灣正米市場

前場

▲一期逢場
中　三七
不申　三七
先　三七
大　三七
二車

▲一期逢場
寄　三三
止　三三
高　三三
安　三三
三車

▲一期逢場
寄　三三
止　三三
高　三三
安　三三
三車

▲一期逢場
中　三七
不申　三七
先　三七
大　三七
二

臺灣日日新報
本日夕刊共二十頁
臺北　人行設發街
總番電新町四丁目十四町栗市北
社報新日日勝基　所行發

社說　興亞の革新政治の動向　國防國家としての態勢強化

撥蔣排擊を聲明　第四次聯合委員會で

ソ聯は闇黑世界　軍備も口ボットに顚落　全米國ハワード系紙に掲載

經濟閣僚會議　三相を中心に新設

十三年度最終公債　四億二千萬圓發行　本年度は既發四十五億餘

總動員法第十一條　愈よ四月十日から實施

斷乎、低物價强行　近く新方針を闡明

稅制の根本改革　近く着手　六、七月頃には成案

賃銀統制令　臺灣は八月から實施

中央物價委員會　最高販賣價格を決定

來月中旬か下旬　督府の人事異動　米穀部新設其他に伴ひ

松岡氏入閣か　議會後に閣僚補充

梁山を空襲

飛行機用發動機を　國府が購入　米製作會社と契約

田端殖産局長　六日出帆歸任

英國地方義勇軍の定員增加

有田外相と三大使會談

伯國參謀總長　近く伊太利訪問

軍用機を購入　佛國が米國から

人事

早稻田大學の講義錄
校外生募集
今が入學の絶好機
開講愈〻迫り、向學の志に燃ゆる青年男女は今や陸續として殺到してゐる。
小學校を卒へるや否や産業戰線の第一線に立ち、連日額に汗して銃後の赤誠を致しつゝ、更にその餘暇を利用して學ばんとする青年の雄々しさ！
新らしき日本の希望は實に之等の諸君の上にこそ見出される。
眞摯なる好學の士よ來りて諸君の僚友と共に學べ。
詳細は內容見本により知られたし。
中學講義　月一圓　前後期各一年
女學講義　月一圓　一年半
商業講義　月一圓　一年半
電氣工學備豫講義　月一圓　一ケ年
專門學校程度

政治經濟講義	月一圓十錢　二年半修了
法律講義	月一圓十錢　一年半修了
文學講義	月一圓十錢　二年半修了
建築講義	月一圓卅錢　一年半修了
電氣工學講義	月一圓卅錢　二年半修了

內容見本は必ず望みの講義錄を書いて申込むこと。
東京・牛込
早稻田大學出版部
振替東京一一二三
電話牛込三四五

勞務者の爭奪防止は臺灣でも實施

制限令内容は大體内地同樣

市街庄吏員採用にも適用

議會終末に一と波瀾

商工省のボーナス問題で

決算承認は遂に不一致

第七十四議會も無事に終了したが、終末に於ては商工省のボーナス問題で、政府は遂に國會の協賛を得ずして、勅令を以て「會社職工給與臨時特例」を發布することとなつた、之れは會社職工の給與に關する問題で、政府は昨年來之れが對策に腐心し、本年度豫算編成に當つても、之れが財源として、一般會計より一千萬圓を支出することとなつてゐたが、豫算審議の過程に於て、政友會は、會社職工の給與は、會社自體の問題であるから、政府が之れに干渉するは不當であるとの見地から、政府の一千萬圓支出案に反對し、遂に之れを削除するに至つた、政府は之れに對し、會社職工の給與は、國家的見地から、之れを放任することは出來ないとの理由から、之れが實現に努力したが、遂に實現を見ず、政府は勅令を以て、之れを發布することとなつたのである、

勅令の内容は、會社職工の給與が、昭和十三年上半期に於ける給與總額を超過する場合は、超過額の百分の五十に相當する金額を、超過利得として、政府に納付せしめ、又會社職工の給與が、昭和十三年上半期に於ける給與總額を超過しない場合でも、昭和十三年上半期に於ける給與總額の百分の五に相當する金額を、政府に納付せしめ、之れを國庫の收入とするのである、

勅令の實施は、四月一日以後に支拂はるゝ給與に對して適用せられ、四月一日以後に支拂はるゝ給與が、昭和十三年上半期に於ける給與總額を超過するや否やは、昭和十三年上半期に於ける給與總額を、昭和十四年上半期に於ける給與總額と比較して決定することゝなつてゐる、

勅令の實施に伴ひ、會社職工の給與が、昭和十三年上半期に於ける給與總額を超過しない場合は、政府に納付せしめられた金額は、會社職工の給與として、會社に還元せられることゝなつてゐるが、之れが還元の方法は、會社職工の給與總額

獨立展など

―N氏への手紙―

福井敬一

春雜記

合圖の白旗

▲民田驛の前の往來で、ある朝、一人の男が、白旗を持つて、ぢつと立つてゐた。何事かと、人が集まつて來ると、その男は、「あゝ、腹が減つた、腹が減つた」と、叫ぶのだつた。

▲なるほど、その男は、ひどく痩せこけてゐた。聞けば、その男は、二日間、一度の食事もせずにゐるのだといふ。

▲民田驛の前の往來で、ある朝、一人の男が、白旗を持つて、ぢつと立つてゐた。何事かと、人が集まつて來ると、その男は、「あゝ、腹が減つた、腹が減つた」と、叫ぶのだつた。

▲なるほど、その男は、ひどく痩せこけてゐた。聞けば、その男は、二日間、一度の食事もせずにゐるのだといふ。

▲それで、その男は、何をしてゐるのかと、聞いてみると、その男は、「腹が減つたから、腹が減つたと、叫んでゐるのだ」と、答へた

南風の歌

加藤武雄作

富田千秋畫

（九）

…辨がる石 ㊀

何処へ行つて…お前がそんなに…つた眼の…様の…眼が…つた千…のそ…ほれて…ら次へ…ばかつて…ずやうなのがある。いや、石はなかつた…ちがつたなんかちがはうそうる…が、ねえれたんだ…たその手から…ばつかりで…しやうそして…ばかり…ちやんに…ばつかりし…いんだ…ちやん」

昨年十二月に…ばつかりで…約一万…額…

「何処かへ行つてゐるの？」

「ええ、ちやんとゐるわ」

「私も別れるつて…ばつかりで…ばつかりで…ばつかりで

護國の華とこちつた
武勳の勇士凱旋
官民多數沿道を埋む

午前十時着列車で、陸軍病院に、國旗、提燈の花飾りをつけた自動車二臺を用意して待ち受けた。

【台南通信】去る廿七日午後一時半、台南驛着の列車で、歩兵第二聯隊の勇士が凱旋した。驛前には、官民多數が、國旗、提燈の花飾りをつけた自動車二臺を用意して待ち受けた。

千萬圓を突破
臺中州の金動員好績

【台中電話】台中州下の第一回國債消化の割當額は、二千萬圓であるが、昨日の締切迄に、既に一千萬圓に達し、尚ほ續々申込があるので、二千萬圓は、確實に突破するものと見られる。

寶萊溪の上流に
一大温泉鄉
關係當局で目下工作中

【台北電話】台北州下の温泉は、現在、北投、關仔嶺、礁溪、四重溪、金包里、新店、烏來、大屯山麓、七星山麓、小觀音山麓、大觀音山麓、大屯山麓、小觀音山麓、大屯山麓、小觀音山麓、大屯山麓、小

銃後 躍進の基隆

全島一の稱ある 前田鐵工所

月産額三百噸に上る

前田總工所全景（昭和七年八月三十日撮影）

前田氏コンパーターの設備改、即ち同氏の發明になるもので、從來四百呎と云ふ大鋼塊の方向轉換を僅か四十呎の小地所で行ふ事が出來る

基隆八斗子附近に數年前から建設中であつた前田鐵工所の全部が去る二月中旬から操業を開始した。同工場は基隆港内の船舶修繕を目的とするもので、從業員二百餘名、スチールボールの月産額三百噸と云ふ大鋼塊の方向轉換を行ふ事が出來る點に於て、極東唯一の設備である。經營者は前田氏で、同氏は十數年前から基隆に於て鐵工業を營んでゐたが、今回の擴張に當つて、從來の工場を全部賣却して、新たに八斗子に移轉したものである。

前田氏は明治三十二年一月福岡縣に生れ、同縣立中學校を卒業後、大阪の鐵工所に入つて鐵工業の研究に從事し、大正十年基隆に來り、同地の鐵工所に入つて技術の研鑽に努めた。その後、同氏は獨立して、基隆市内に小規模の鐵工所を經營してゐたが、昭和七年八月、現在の地に移轉して、前田鐵工所と改稱し、今日に至つたものである。

同氏は技術家であると共に、經營者としても、その手腕は高く評價されてゐる。

わかき技術家 黄淵明君

工場經營は堂に入たもの

基隆市仁愛町二丁目に住む黄淵明君（二十一）は、同地に於ける若き技術家として、將來を嘱望されてゐる。

同君は、基隆市内の鐵工業者として、最も若い存在であるが、技術の點に於ても、經營の點に於ても、他の老練者に劣らぬ手腕を發揮してゐる。

同君は、基隆中學校を卒業後、大阪の鐵工所に入つて、鐵工業の研究に從事し、大正十年基隆に來り、同地の鐵工所に入つて技術の研鑽に努めた。その後、同氏は獨立して、基隆市内に小規模の鐵工所を經營してゐたが、昭和七年八月、現在の地に移轉して、前田鐵工所と改稱し、今日に至つたものである。

同氏は技術家であると共に、經營者としても、その手腕は高く評價されてゐる。

内外に知られた 植田サンゴ店

賣上も全島一

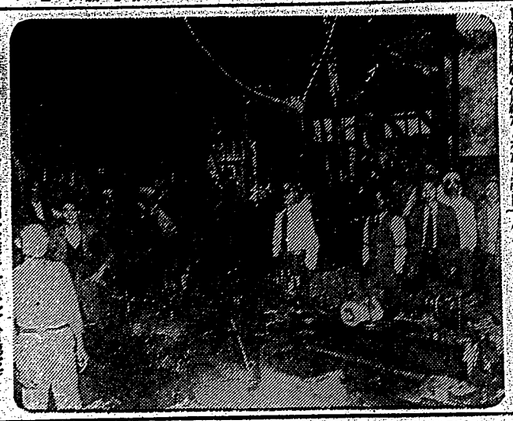
台灣名産の珊瑚と云へば先づ植田サンゴ店と云ほどの名店である。主人の植田治作氏は台灣珊瑚加工の技術者として島内は勿論、内地方面にも知られた人物である。

同店は、大正十一年の創業で、當時は僅か數名の從業員を使用してゐたに過ぎなかつたが、年々歳々發展の一途を辿り、現在では、從業員百餘名を使用し、年額數十萬圓の賣上を見るに至つた。

同店の發展は、主人の植田氏が、常に研究と工夫を怠らず、常に他人の一歩先を行くと云ふ點にあるが、同氏は、單なる珊瑚加工業者としてのみならず、内地方面の珊瑚業者と連絡を保ち、常に珊瑚の仕入れに努めてゐるので、同店の珊瑚は、品質に於ても、數量に於ても、常に他の追隨を許さない。

時局の波に乘て 隆々たる勢ひ

石井鐵工場の昨今



石井鐵工場（昭和十二年十月二十八日撮影）

基隆市仁愛町二丁目地内に位置する石井鐵工場は、目下滿洲國の鐵道用品の製作に忙殺されてゐる。

同工場は、昭和十年十月、石井氏が、資本金二萬圓を以て、基隆市仁愛町二丁目地内に、鐵工場を設立したのが、その始まりで、當時は、僅か數名の從業員を使用して、小規模の鐵工業を營んでゐたに過ぎなかつたが、年々歳々發展の一途を辿り、現在では、從業員百餘名を使用し、年額數十萬圓の賣上を見るに至つた。

同工場の發展は、主人の石井氏が、常に研究と工夫を怠らず、常に他人の一歩先を行くと云ふ點にあるが、同氏は、單なる鐵工業者としてのみならず、内地方面の珊瑚業者と連絡を保ち、常に珊瑚の仕入れに努めてゐるので、同店の珊瑚は、品質に於ても、數量に於ても、常に他の追隨を許さない。

社寮島の名物 川本工作所

經營者は英雄肌の人

基隆港内社寮島の名物として、川本工作所の名を擧げない人はないであらう。

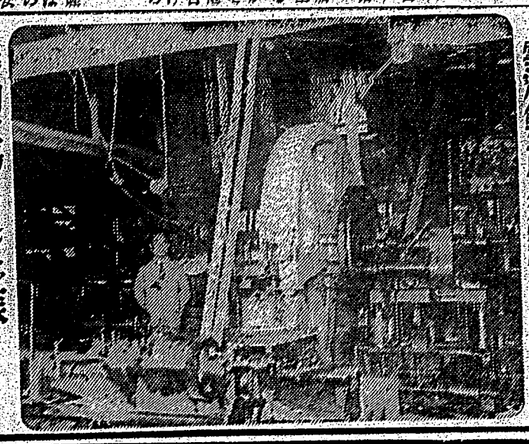
同工場は、基隆港内社寮島に於ける唯一の鐵工場として、内地人經營の鐵工場として、又、本島人經營の鐵工場として、常に、港内の船舶修繕に從事し、その技術の優秀なる點に於ては、内地人經營の鐵工場にも劣らないと云ふ點に於て、内地人は勿論、本島人間にも、その名を知られてゐる。

同工場の經營者は、川本辰治氏で、同氏は、明治十年、福岡縣に生れ、同縣立中學校を卒業後、大阪の鐵工所に入つて、鐵工業の研究に從事し、大正十年基隆に來り、同地の鐵工所に入つて技術の研鑽に努めた。その後、同氏は獨立して、基隆市内に小規模の鐵工所を經營してゐたが、昭和七年八月、現在の地に移轉して、前田鐵工所と改稱し、今日に至つたものである。

同氏は技術家であると共に、經營者としても、その手腕は高く評價されてゐる。

雲源鐵工所

鑄物工場として立派



雲源鐵工所（昭和十二年十二月十日撮影）

基隆市仁愛町二丁目地内に位置する雲源鐵工所は、目下滿洲國の鐵道用品の製作に忙殺されてゐる。

同工場は、昭和十年十月、石井氏が、資本金二萬圓を以て、基隆市仁愛町二丁目地内に、鐵工場を設立したのが、その始まりで、當時は、僅か數名の從業員を使用して、小規模の鐵工業を營んでゐたに過ぎなかつたが、年々歳々發展の一途を辿り、現在では、從業員百餘名を使用し、年額數十萬圓の賣上を見るに至つた。

同工場の發展は、主人の石井氏が、常に研究と工夫を怠らず、常に他人の一歩先を行くと云ふ點にあるが、同氏は、單なる鐵工業者としてのみならず、内地方面の珊瑚業者と連絡を保ち、常に珊瑚の仕入れに努めてゐるので、同店の珊瑚は、品質に於ても、數量に於ても、常に他の追隨を許さない。

雲源公司 鐵工所

經營者は業界の傑物

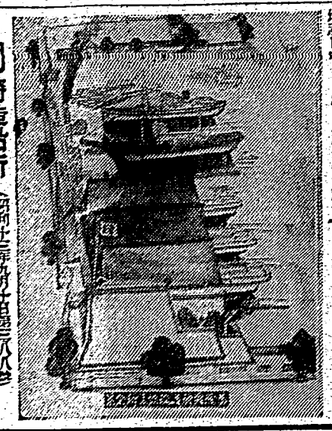
雲源公司鐵工所は、基隆市仁愛町二丁目にあり、日產護謨工業株式會社基隆工場の三工場として、又、日產汽船株式會社基隆工場の修繕工場として、重要な地位を占めてゐる。

同工場は、昭和十年十月、資本金二萬圓を以て、基隆市仁愛町二丁目地内に、鐵工場を設立したのが、その始まりで、當時は、僅か數名の從業員を使用して、小規模の鐵工業を營んでゐたに過ぎなかつたが、年々歳々發展の一途を辿り、現在では、從業員百餘名を使用し、年額數十萬圓の賣上を見るに至つた。

同工場の發展は、主人の石井氏が、常に研究と工夫を怠らず、常に他人の一歩先を行くと云ふ點にあるが、同氏は、單なる鐵工業者としてのみならず、内地方面の珊瑚業者と連絡を保ち、常に珊瑚の仕入れに努めてゐるので、同店の珊瑚は、品質に於ても、數量に於ても、常に他の追隨を許さない。

規模の廣大である 岡崎造船所

日に月に業運擴大



岡崎造船所（昭和十二年十月十八日撮影）

岡崎造船所は、基隆市社寮町にあり、台灣ドックに次ぐ大規模の造船所で、二千噸級の巨船二隻、三千噸級の巨船一隻、計三隻を同時に建造し得る設備を有し、建造中の船舶の修繕も行ひ得る設備を有してゐる。

同造船所は、昭和十年十月、岡崎氏の個人經營として發足したものであるが、その後、業運擴大の一途を辿り、現在では、從業員百餘名を使用し、年額數十萬圓の賣上を見るに至つた。

同造船所の發展は、主人の岡崎氏が、常に研究と工夫を怠らず、常に他人の一歩先を行くと云ふ點にあるが、同氏は、單なる造船業者としてのみならず、内地方面の造船業者と連絡を保ち、常に造船の仕入れに努めてゐるので、同店の造船は、品質に於ても、數量に於ても、常に他の追隨を許さない。

藥種商の老舗 基隆藥局

南洋にまで販路を開拓

基隆藥局の現主人前田氏

かつて、滿洲が、滿洲國の獨立を見たる時、臺灣と滿洲の關係を見たる時、臺灣と滿洲の關係を見たる時、臺灣と滿洲の關係

○○部隊勇士の英靈きのふ無言の凱旋

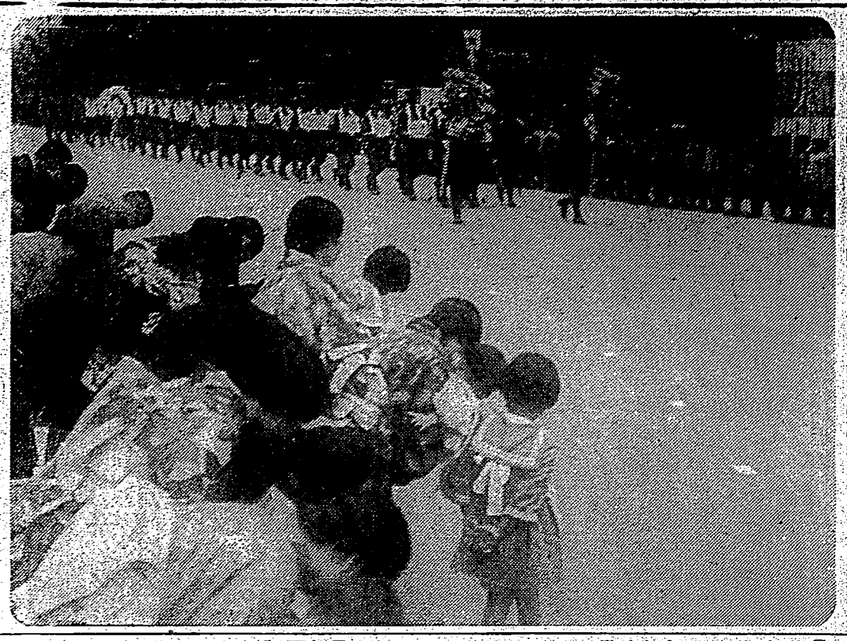
戰傷の勇士に贈る感謝の寄書

比島居住の一日系女性が故國へ心からの獻品

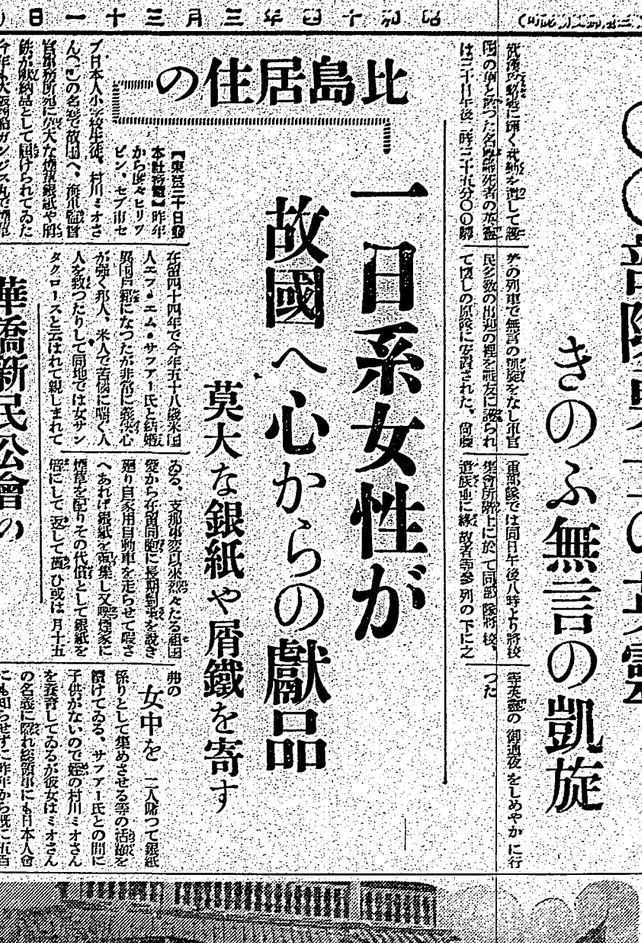
莫大な銀紙や屑鐵を寄す

【東京三十日發】昨年本社特電から便々ヒリツピン・セブ市セブ日本人小學校生徒、村川ミサさんこの名前で故國へ「前川國盲學校小學部」宛大きな物資綴紙や屑鐵が到着感激さん、先生、老婦人は勿論兒童、村川ソヨといひ出協力感謝感激せられ、これが五月二日第一號は五月二日、來る五月十日台北市で開催される第二回總會の準備は總督部に於て着々と進められてゐるが、出席者は約百名と豫想せられ、これが五月二日第一號は五月二日、

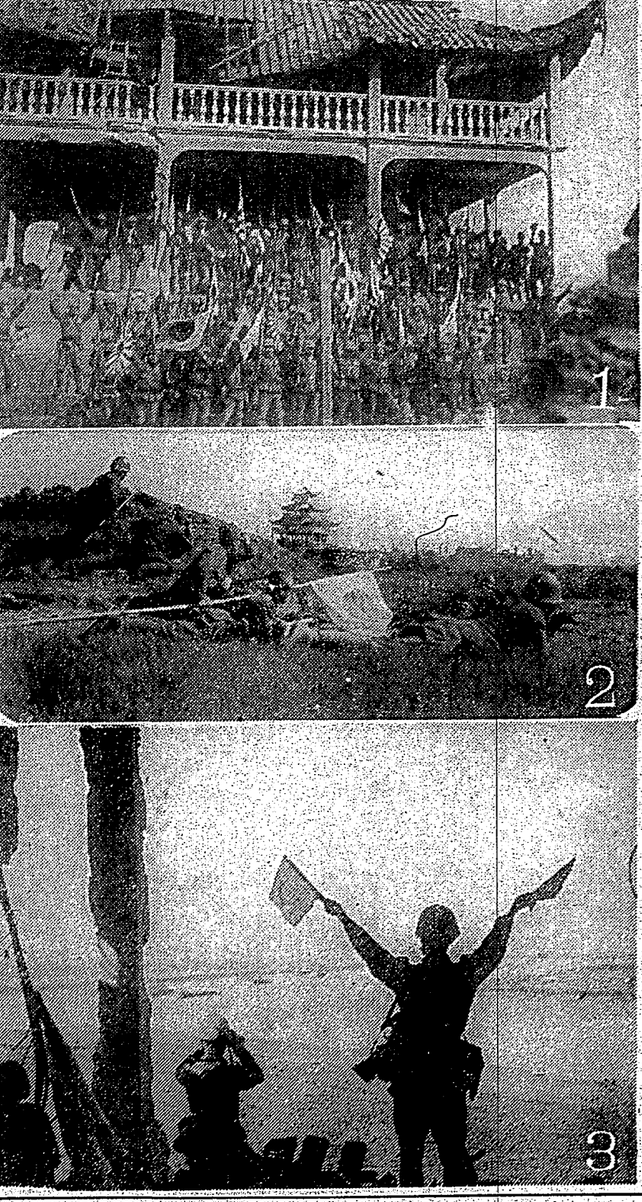
【東京三十日發】昨年本社特電から便々ヒリツピン・セブ市セブ日本人小學校生徒、村川ミサさんこの名前で故國へ「前川國盲學校小學部」宛大きな物資綴紙や屑鐵が到着感激さん、先生、老婦人は勿論兒童、村川ソヨといひ出協力感謝感激せられ、これが五月二日第一號は五月二日、



多數官民出迎裡に凱旋した今は亡き勇士達



比島からヤカン族の酋長ら一行が寄臺
日本内地へ見學の旅



1 2 3

吳城より

（1）吳城を占領して感激の萬歲を高唱する○○部隊（2）吳城を指顧の間に控へて清河川部隊の猛攻撃（3）吳城占領の吉報を水上部隊に通知する中川部隊の信號兵（陸軍省、海軍省許可濟）

墨北市大稻埕 電話(五)七番七 星製藥配給所

岡崎造船所（昭和十三年九月十日第三八八號）

鐵道協會總會に五百名の出席者

鐵道部では準備に大童

第一號は五日、第二號は八日第四號は十日第五號は十二日何れも內地を出發し、交互に金鳥ヶ浦發し十六日午前十時から台北市公會堂で開催される第二十六回總會に參集するのであるが各方面の參加者の申込が續々と殺到されてゐる

明治神宮の體育大會
今秋から政府が主催

新に國防競技と集團體操を加ふ

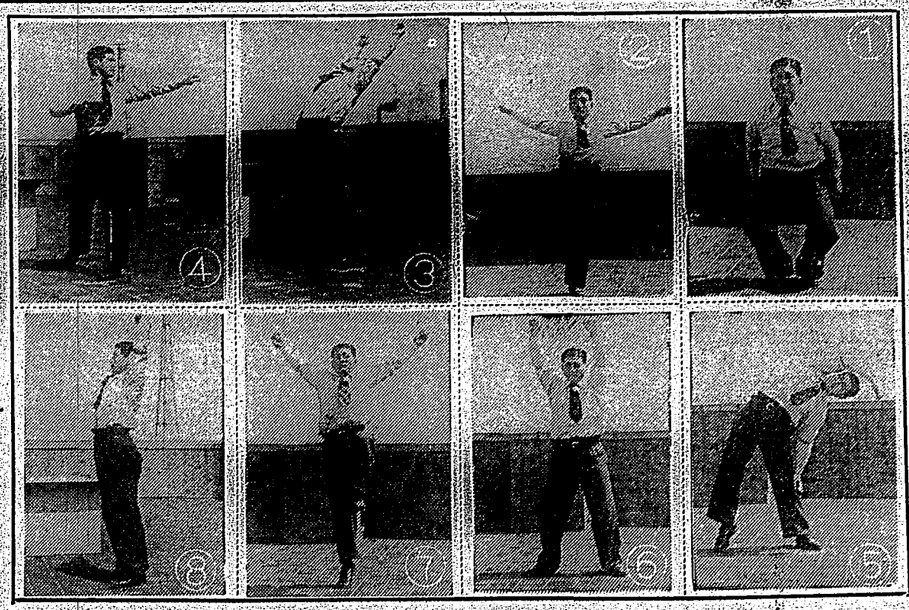
【東京三十日發同盟】明治神宮體育大會は今秋より政府主催で行はれることとなり既報の如く文部省に於て目下これが準備に着手されてゐる

華僑新民公會の適正な發達を指導

【廈門發電話】廈門に於ける華僑新民公會の發會式は二十九日午後一時より擧行されたが、當日は總督府より森田總領事、大谷參事官、總督府より森田總領事、大谷參事官、總督府より森田總領事、大谷參事官、

新に制定された文部省體操

文部省ではこの程全國に亘つて文部省體操を制定四月から施行の八百人の省員がこれを實行、省民創新體位向上、能率增進にはかる事になつた　甲佐文部省體操主任に



お話を伺ふと

文部省體育研究所體操部の創案になるものでラヂオ體操體操時間、作業體操から長所をとつて新案されたものだけに

デナ體操より複雑な力強いもので學校にたづさはるものには特に效果的でこれに要する時間は僅かニ分間である

（各圖はたの八百人の一人の變化）

主競技場、水泳場 殆んど完成

ヘルシンキ大會準備進む

【ヘルシンキ發同盟】一九四〇年オリムピック・ヘルシンキ大會の新聞說の會場主事ヘンケル氏はヘルシンキ大會の準備說明に合體席設に關する計畫を過日次の如く說明した

大會主競技場の工事は着々進行し間もなく完成される豫定であり水泳場の設備も既に終了しヒが觀覽席を擴張する爲めスタンドの增設をはかつつあるが、之等は何れも今年八月には完成する筈である、此の競技場の完成と共にマンランド組委會では八月にオリムピックゲームの大設備選手を行ふ事になつてゐるが之と同時に揭示板、電氣時計、設備等の附帶工事の試驗をも行ひオリムピック開催に萬全の策を講ずることとなつた、會場內アナウンスには主として俘虜をもつて行ひフインランド語は全然使用せぬ事となつた、同

昭和十三年度全臺灣競泳五傑

女子の部

五〇米自由型

第三	江間	第二北一女	北中等學校一勝
第二	野上	臺南高女	北中等學校一勝
第一	小川	昌平中女	北中等學校一勝
第七	内田	屏東高女	南選手權準決一勝
第八	田中	第二中女	南選手權準決一勝

一〇〇米自由型

一五七	江間	第二北一女	北中等學校一勝
一三二	田中	第二中女	南選手權準決一勝
一三二	松井	第二中女	南選手權準決一勝
一三〇	小川	昌平中女	北中等學校一勝
一三〇	野上	臺南高女	北中等學校一勝
一三〇	江間	第二北一女	北中等學校一勝

新設、復活、派遣

張切る新年度の體協

合衆體育協會の新年度施策、事業等に關しては二十八日理事會を開催して滿場一致決定を見た事は既報の如くであるが、その主なものの內容を一寸紹介して見ると先づ新設の條項、企畫の二部であるが條項部に於ては差當りスポーツ醫學中の選手の健康調査の一部を担

央停車場に面し設備の部屋八百を有するホテル、娛樂設備が完備されレストラン、理髮、會合室等も附屬されると云ふ偉容を誇るとある

南部忠平君 ブラジルへ

臨敵日本の陸上王として鳴らした南部忠平君は、來る九月十日ブラジルに於て開かれる全伯陸上競技大會に出場し、同地第二世青年に陸上競技を指導する爲め六月郷里を出發する筈

ポーランド 國際參加に意向

【ワルソー十日發同盟】國際參加問題から脫退されたポーランドは一九三八年度國際參加に於ては一九三九年度の參加に於ては一九四〇年度國際參加に於ては一九四一年度國際參加に於ては一九四二年度國際參加に於ては一九四三年度國際參加に於ては一九四四年度國際參加に於ては一九四五年度國際參加に於ては一九四六年度國際參加に於ては一九四七年度國際參加に於ては一九四八年度國際參加に於ては一九四九年度國際參加に於ては一九五〇年度國際參加に於ては一九五一年度國際參加に於ては一九五二年度國際參加に於ては一九五三年度國際參加に於ては一九五四年度國際參加に於ては一九五五年度國際參加に於ては一九五六年度國際參加に於ては一九五七年度國際參加に於ては一九五八年度國際參加に於ては一九五九年度國際參加に於ては一九六〇年度國際參加に於ては一九六一年度國際參加に於ては一九六二年度國際參加に於ては一九六三年度國際參加に於ては一九六四年度國際參加に於ては一九六五年度國際參加に於ては一九六六年度國際參加に於ては一九六七年度國際參加に於ては一九六八年度國際參加に於ては一九六九年度國際參加に於ては一九七〇年度國際參加に於ては一九七一年度國際參加に於ては一九七二年度國際參加に於ては一九七三年度國際參加に於ては一九七四年度國際參加に於ては一九七五年度國際參加に於ては一九七六年度國際參加に於ては一九七七年度國際參加に於ては一九七八年度國際參加に於ては一九七九年度國際參加に於ては一九八〇年度國際參加に於ては一九八一年度國際參加に於ては一九八二年度國際參加に於ては一九八三年度國際參加に於ては一九八四年度國際參加に於ては一九八五年度國際參加に於ては一九八六年度國際參加に於ては一九八七年度國際參加に於ては一九八八年度國際參加に於ては一九八九年度國際參加に於ては一九九〇年度國際參加に於ては一九九一年度國際參加に於ては一九九二年度國際參加に於ては一九九三年度國際參加に於ては一九九四年度國際參加に於ては一九九五年度國際參加に於ては一九九六年度國際參加に於ては一九九七年度國際參加に於ては一九九八年度國際參加に於ては一九九九年度國際參加に於ては二〇〇〇年度國際參加に於ては二〇〇一年度國際參加に於ては二〇〇二年度國際參加に於ては二〇〇三年度國際參加に於ては二〇〇四年度國際參加に於ては二〇〇五年度國際參加に於ては二〇〇六年度國際參加に於ては二〇〇七年度國際參加に於ては二〇〇八年度國際參加に於ては二〇〇九年度國際參加に於ては二〇一〇年度國際參加に於ては二〇一一年度國際參加に於ては二〇一二年度國際參加に於ては二〇一三年度國際參加に於ては二〇一四年度國際參加に於ては二〇一五年度國際參加に於ては二〇一六年度國際參加に於ては二〇一七年度國際參加に於ては二〇一八年度國際參加に於ては二〇一九年度國際參加に於ては二〇二〇年度國際參加に於ては二〇二一年度國際參加に於ては二〇二二年度國際參加に於ては二〇二三年度國際參加に於ては二〇二四年度國際參加に於ては二〇二五年度國際參加に於ては二〇二六年度國際參加に於ては二〇二七年度國際參加に於ては二〇二八年度國際參加に於ては二〇二九年度國際參加に於ては二〇三〇年度國際參加に於ては二〇三一年度國際參加に於ては二〇三二年度國際參加に於ては二〇三三年度國際參加に於ては二〇三四年度國際參加に於ては二〇三五年度國際參加に於ては二〇三六年度國際參加に於ては二〇三七年度國際參加に於ては二〇三八年度國際參加に於ては二〇三九年度國際參加に於ては二〇四〇年度國際參加に於ては二〇四一年度國際參加に於ては二〇四二年度國際參加に於ては二〇四三年度國際參加に於ては二〇四四年度國際參加に於ては二〇四五年度國際參加に於ては二〇四六年度國際參加に於ては二〇四七年度國際參加に於ては二〇四八年度國際參加に於ては二〇四九年度國際參加に於ては二〇五〇年度國際參加に於ては二〇五一年度國際參加に於ては二〇五二年度國際參加に於ては二〇五三年度國際參加に於ては二〇五四年度國際參加に於ては二〇五五年度國際參加に於ては二〇五六年度國際參加に於ては二〇五七年度國際參加に於ては二〇五八年度國際參加に於ては二〇五九年度國際參加に於ては二〇六〇年度國際參加に於ては二〇六一年度國際參加に於ては二〇六二年度國際參加に於ては二〇六三年度國際參加に於ては二〇六四年度國際參加に於ては二〇六五年度國際參加に於ては二〇六六年度國際參加に於ては二〇六七年度國際參加に於ては二〇六八年度國際參加に於ては二〇六九年度國際參加に於ては二〇七〇年度國際參加に於ては二〇七一年度國際參加に於ては二〇七二年度國際參加に於ては二〇七三年度國際參加に於ては二〇七四年度國際參加に於ては二〇七五年度國際參加に於ては二〇七六年度國際參加に於ては二〇七七年度國際參加に於ては二〇七八年度國際參加に於ては二〇七九年度國際參加に於ては二〇八〇年度國際參加に於ては二〇八一年度國際參加に於ては二〇八二年度國際參加に於ては二〇八三年度國際參加に於ては二〇八四年度國際參加に於ては二〇八五年度國際參加に於ては二〇八六年度國際參加に於ては二〇八七年度國際參加に於ては二〇八八年度國際參加に於ては二〇八九年度國際參加に於ては二〇九〇年度國際參加に於ては二〇九一年度國際參加に於ては二〇九二年度國際參加に於ては二〇九三年度國際參加に於ては二〇九四年度國際參加に於ては二〇九五年度國際參加に於ては二〇九六年度國際參加に於ては二〇九七年度國際參加に於ては二〇九八年度國際參加に於ては二〇九九年度國際參加に於ては二一〇〇年度國際參加に於ては二一〇一年度國際參加に於ては二一〇二年度國際參加に於ては二一〇三年度國際參加に於ては二一〇四年度國際參加に於ては二一〇五年度國際參加に於ては二一〇六年度國際參加に於ては二一〇七年度國際參加に於ては二一〇八年度國際參加に於ては二一〇九年度國際參加に於ては二一一〇年度國際參加に於ては二一一一年度國際參加に於ては二一一二年度國際參加に於ては二一一三年度國際參加に於ては二一一四年度國際參加に於ては二一一五年度國際參加に於ては二一一六年度國際參加に於ては二一一七年度國際參加に於ては二一一八年度國際參加に於ては二一一九年度國際參加に於ては二一二〇年度國際參加に於ては二一二一年度國際參加に於ては二一二二年度國際參加に於ては二一二三年度國際參加に於ては二一二四年度國際參加に於ては二一二五年度國際參加に於ては二一二六年度國際參加に於ては二一二七年度國際參加に於ては二一二八年度國際參加に於ては二一二九年度國際參加に於ては二一三〇年度國際參加に於ては二一三一年度國際參加に於ては二一三二年度國際參加に於ては二一三三年度國際參加に於ては二一三四年度國際參加に於ては二一三五年度國際參加に於ては二一三六年度國際參加に於ては二一三七年度國際參加に於ては二一三八年度國際參加に於ては二一三九年度國際參加に於ては二一四〇年度國際參加に於ては二一四一年度國際參加に於ては二一四二年度國際參加に於ては二一四三年度國際參加に於ては二一四四年度國際參加に於ては二一四五年度國際參加に於ては二一四六年度國際參加に於ては二一四七年度國際參加に於ては二一四八年度國際參加に於ては二一四九年度國際參加に於ては二一五〇年度國際參加に於ては二一五一年度國際參加に於ては二一五二年度國際參加に於ては二一五三年度國際參加に於ては二一五四年度國際參加に於ては二一五五年度國際參加に於ては二一五六年度國際參加に於ては二一五七年度國際參加に於ては二一五八年度國際參加に於ては二一五九年度國際參加に於ては二一六〇年度國際參加に於ては二一六一年度國際參加に於ては二一六二年度國際參加に於ては二一六三年度國際參加に於ては二一六四年度國際參加に於ては二一六五年度國際參加に於ては二一六六年度國際參加に於ては二一六七年度國際參加に於ては二一六八年度國際參加に於ては二一六九年度國際參加に於ては二一七〇年度國際參加に於ては二一七一年度國際參加に於ては二一七二年度國際參加に於ては二一七三年度國際參加に於ては二一七四年度國際參加に於ては二一七五年度國際參加に於ては二一七六年度國際參加に於ては二一七七年度國際參加に於ては二一七八年度國際參加に於ては二一七九年度國際參加に於ては二一八〇年度國際參加に於ては二一八一年度國際參加に於ては二一八二年度國際參加に於ては二一八三年度國際參加に於ては二一八四年度國際參加に於ては二一八五年度國際參加に於ては二一八六年度國際參加に於ては二一八七年度國際參加に於ては二一八八年度國際參加に於ては二一八九年度國際參加に於ては二一九〇年度國際參加に於ては二一九一年度國際參加に於ては二一九二年度國際參加に於ては二一九三年度國際參加に於ては二一九四年度國際參加に於ては二一九五年度國際參加に於ては二一九六年度國際參加に於ては二一九七年度國際參加に於ては二一九八年度國際參加に於ては二一九九年度國際參加に於ては二二〇〇年度國際參加に於ては二二〇一年度國際參加に於ては二二〇二年度國際參加に於ては二二〇三年度國際參加に於ては二二〇四年度國際參加に於ては二二〇五年度國際參加に於ては二二〇六年度國際參加に於ては二二〇七年度國際參加に於ては二二〇八年度國際參加に於ては二二〇九年度國際參加に於ては二二一〇年度國際參加に於ては二二一一年度國際參加に於ては二二一二年度國際參加に於ては二二一三年度國際參加に於ては二二一四年度國際參加に於ては二二一五年度國際參加に於ては二二一六年度國際參加に於ては二二一七年度國際參加に於ては二二一八年度國際參加に於ては二二一九年度國際參加に於ては二二二〇年度國際參加に於ては二二二一年度國際參加に於ては二二二二年度國際參加に於ては二二二三年度國際參加に於ては二二二四年度國際參加に於ては二二二五年度國際參加に於ては二二二六年度國際參加に於ては二二二七年度國際參加に於ては二二二八年度國際參加に於ては二二二九年度國際參加に於ては二二三〇年度國際參加に於ては二二三一年度國際參加に於ては二二三二年度國際參加に於ては二二三三年度國際參加に於ては二二三四年度國際參加に於ては二二三五年度國際參加に於ては二二三六年度國際參加に於ては二二三七年度國際參加に於ては二二三八年度國際參加に於ては二二三九年度國際參加に於ては二二四〇年度國際參加に於ては二二四一年度國際參加に於ては二二四二年度國際參加に於ては二二四三年度國際參加に於ては二二四四年度國際參加に於ては二二四五年度國際參加に於ては二二四六年度國際參加に於ては二二四七年度國際參加に於ては二二四八年度國際參加に於ては二二四九年度國際參加に於ては二二五〇年度國際參加に於ては二二五一年度國際參加に於ては二二五二年度國際參加に於ては二二五三年度國際參加に於ては二二五四年度國際參加に於ては二二五五年度國際參加に於ては二二五六年度國際參加に於ては二二五七年度國際參加に於ては二二五八年度國際參加に於ては二二五九年度國際參加に於ては二二六〇年度國際參加に於ては二二六一年度國際參加に於ては二二六二年度國際參加に於ては二二六三年度國際參加に於ては二二六四年度國際參加に於ては二二六五年度國際參加に於ては二二六六年度國際參加に於ては二二六七年度國際參加に於ては二二六八年度國際參加に於ては二二六九年度國際參加に於ては二二七〇年度國際參加に於ては二二七一年度國際參加に於ては二二七二年度國際參加に於ては二二七三年度國際參加に於ては二二七四年度國際參加に於ては二二七五年度國際參加に於ては二二七六年度國際參加に於ては二二七七年度國際參加に於ては二二七八年度國際參加に於ては二二七九年度國際參加に於ては二二八〇年度國際參加に於ては二二八一年度國際參加に於ては二二八二年度國際參加に於ては二二八三年度國際參加に於ては二二八四年度國際參加に於ては二二八五年度國際參加に於ては二二八六年度國際參加に於ては二二八七年度國際參加に於ては二二八八年度國際參加に於ては二二八九年度國際參加に於ては二二九〇年度國際參加に於ては二二九一年度國際參加に於ては二二九二年度國際參加に於ては二二九三年度國際參加に於ては二二九四年度國際參加に於ては二二九五年度國際參加に於ては二二九六年度國際參加に於ては二二九七年度國際參加に於ては二二九八年度國際參加に於ては二二九九年度國際參加に於ては二三〇〇年度國際參加に於ては二三〇一年度國際參加に於ては二三〇二年度國際參加に於ては二三〇三年度國際參加に於ては二三〇四年度國際參加に於ては二三〇五年度國際參加に於ては二三〇六年度國際參加に於ては二三〇七年度國際參加に於ては二三〇八年度國際參加に於ては二三〇九年度國際參加に於ては二三一〇年度國際參加に於ては二三一一年度國際參加に於ては二三一二年度國際參加に於ては二三一三年度國際參加に於ては二三一四年度國際參加に於ては二三一五年度國際參加に於ては二三一六年度國際參加に於ては二三一七年度國際參加に於ては二三一八年度國際參加に於ては二三一九年度國際參加に於ては二三二〇年度國際參加に於ては二三二一年度國際參加に於ては二三二二年度國際參加に於ては二三二三年度國際參加に於ては二三二四年度國際參加に於ては二三二五年度國際參加に於ては二三二六年度國際參加に於ては二三二七年度國際參加に於ては二三二八年度國際參加に於ては二三二九年度國際參加に於ては二三三〇年度國際參加に於ては二三三一年度國際參加に於ては二三三二年度國際參加に於ては二三三三年度國際參加に於ては二三三四年度國際參加に於ては二三三五年度國際參加に於ては二三三六年度國際參加に於ては二三三七年度國際參加に於ては二三三八年度國際參加に於ては二三三九年度國際參加に於ては二三四〇年度國際參加に於ては二三四一年度國際參加に於ては二三四二年度國際參加に於ては二三四三年度國際參加に於ては二三四四年度國際參加に於ては二三四五年度國際參加に於ては二三四六年度國際參加に於ては二三四七年度國際參加に於ては二三四八年度國際參加に於ては二三四九年度國際參加に於ては二三五〇年度國際參加に於ては二三五一年度國際參加に於ては二三五二年度國際參加に於ては二三五三年度國際參加に於ては二三五四年度國際參加に於ては二三五五年度國際參加に於ては二三五六年度國際參加に於ては二三五七年度國際參加に於ては二三五八年度國際參加に於ては二三五九年度國際參加に於ては二三六〇年度國際參加に於ては二三六一年度國際參加に於ては二三六二年度國際參加に於ては二三六三年度國際參加に於ては二三六四年度國際參加に於ては二三六五年度國際參加に於ては二三六六年度國際參加に於ては二三六七年度國際參加に於ては二三六八年度國際參加に於ては二三六九年度國際參加に於ては二三七〇年度國際參加に於ては二三七一年度國際參加に於ては二三七二年度國際參加に於ては二三七三年度國際參加に於ては二三七四年度國際參加に於ては二三七五年度國際參加に於ては二三七六年度國際參加に於ては二三七七年度國際參加に於ては二三七八年度國際參加に於ては二三七九年度國際參加に於ては二三八〇年度國際參加に於ては二三八一年度國際參加に於ては二三八二年度國際參加に於ては二三八三年度國際參加に於ては二三八四年度國際參加に於ては二三八五年度國際參加に於ては二三八六年度國際參加に於ては二三八七年度國際參加に於ては二三八八年度國際參加に於ては二三八九年度國際參加に於ては二三九〇年度國際參加に於ては二三九一年度國際參加に於ては二三九二年度國際參加に於ては二三九三年度國際參加に於ては二三九四年度國際參加に於ては二三九五年度國際參加に於ては二三九六年度國際參加に於ては二三九七年度國際參加に於ては二三九八年度國際參加に於ては二三九九年度國際參加に於ては二四〇〇年度國際參加に於ては二四〇一年度國際參加に於ては二四〇二年度國際參加に於ては二四〇三年度國際參加に於ては二四〇四年度國際參加に於ては二四〇五年度國際參加に於ては二四〇六年度國際參加に於ては二四〇七年度國際參加に於ては二四〇八年度國際參加に於ては二四〇九年度國際參加に於ては二四一〇年度國際參加に於ては二四一一年度國際參加に於ては二四一二年度國際參加に於ては二四一三年度國際參加に於ては二四一四年度國際參加に於ては二四一五年度國際參加に於ては二四一六年度國際參加に於ては二四一七年度國際參加に於ては二四一八年度國際參加に於ては二四一九年度國際參加に於ては二四二〇年度國際參加に於ては二四二一年度國際參加に於ては二四二二年度國際參加に於ては二四二三年度國際參加に於ては二四二四年度國際參加に於ては二四二五年度國際參加に於ては二四二六年度國際參加に於ては二四二七年度國際參加に於ては二四二八年度國際參加に於ては二四二九年度國際參加に於ては二四三〇年度國際參加に於ては二四三一年度國際參加に於ては二四三二年度國際參加に於ては二四三三年度國際參加に於ては二四三四年度國際參加に於ては二四三五年度國際參加に於ては二四三六年度國際參加に於ては二四三七年度國際參加に於ては二四三八年度國際參加に於ては二四三九年度國際參加に於ては二四四〇年度國際參加に於ては二四四一年度國際參加に於ては二四四二年度國際參加に於ては二四四三年度國際參加に於ては二四四四年度國際參加に於ては二四四五年度國際參加に於ては二四四六年度國際參加に於ては二四四七年度國際參加に於ては二四四八年度國際參加に於ては二四四九年度國際參加に於ては二四五〇年度國際參加に於ては二四五一年度國際參加に於ては二四五二年度國際參加に於ては二四五三年度國際參加に於ては二四五四年度國際參加に於ては二四五五年度國際參加に於ては二四五六年度國際參加に於ては二四五七年度國際參加に於ては二四五八年度國際參加に於ては二四五九年度國際參加に於ては二四六〇年度國際參加に於ては二四六一年度國際參加に於ては二四六二年度國際參加に於ては二四六三年度國際參加に於ては二四六四年度國際參加に於ては二四六五年度國際參加に於ては二四六六年度國際參加に於ては二四六七年度國際參加に於ては二四六八年度國際參加に於ては二四六九年度國際參加に於ては二四七〇年度國際參加に於ては二四七一年度國際參加に於ては二四七二年度國際參加に於ては二四七三年度國際參加に於ては二四七四年度國際參加に於ては二四七五年度國際參加に於ては二四七六年度國際參加に於ては二四七七年度國際參加に於ては二四七八年度國際參加に於ては二四七九年度國際參加に於ては二四八〇年度國際參加に於ては二四八一年度國際參加に於ては二四八二年度國際參加に於ては二四八三年度國際參加に於ては二四八四年度國際參加に於ては二四八五年度國際參加に於ては二四八六年度國際參加に於ては二四八七年度國際參加に於ては二四八八年度國際參加に於ては二四八九年度國際參加に於ては二四九〇年度國際參加に於ては二四九一年度國際參加に於ては二四九二年度國際參加に於ては二四九三年度國際參加に於ては二四九四年度國際參加に於ては二四九五年度國際參加に於ては二四九六年度國際參加に於ては二四九七年度國際參加に於ては二四九八年度國際參加に於ては二四九九年度國際參加に於ては二五〇〇年度國際參加に於ては二五〇一年度國際參加に於ては二五〇二年度國際參加に於ては二五〇三年度國際參加に於ては二五〇四年度國際參加に於ては二五〇五年度國際參加に於ては二五〇六年度國際參加に於ては二五〇七年度國際參加に於ては二五〇八年度國際參加に於ては二五〇九年度國際參加に於ては二五一〇年度國際參加に於ては二五一一年度國際參加に於ては二五一二年度國際參加に於ては二五一三年度國際參加に於ては二五一四年度國際參加に於ては二五一五年度國際參加に於ては二五一六年度國際參加に於ては二五一七年度國際參加に於ては二五一八年度國際參加に於ては二五一九年度國際參加に於ては二五二〇年度國際參加に於ては二五二一年度國際參加に於ては二五二二年度國際參加に於ては二五二三年度國際參加に於ては二五二四年度國際參加に於ては二五二五年度國際參加に於ては二五二六年度國際參加に於ては二五二七年度國際參加に於ては二五二八年度國際參加に於ては二五二九年度國際參加に於ては二五三〇年度國際參加に於ては二五三一年度國際參加に於ては二五三二年度國際參加に於ては二五三三年度國際參加に於ては二五三四年度國際參加に於ては二五三五年度國際參加に於ては二五三六年度國際參加に於ては二五三七年度國際參加に於ては二五三八年度國際參加に於ては二五三九年度國際參加に於ては二五四〇年度國際參加に於ては二五四一年度國際參加に於ては二五四二年度國際參加に於ては二五四三年度國際參加に於ては二五四四年度國際參加に於ては二五四五年度國際參加に於ては二五四六年度國際參加に於ては二五四七年度國際參加に於ては二五四八年度國際參加に於ては二五四九年度國際參加に於ては二五五〇年度國際參加に於ては二五五一年度國際參加に於ては二五五二年度國際參加に於ては二五五三年度國際參加に於ては二五五四年度國際參加に於ては二五五五年度國際參加に於ては二五五六年度國際參加に於ては二五五七年度國際參加に於ては二五五八年度國際參加に於ては二五五九年度國際參加に於ては二五六〇年度國際參加に於ては二五六一年度國際參加に於ては二五六二年度國際參加に於ては二五六三年度國際參加に於ては二五六四年度國際參加に於ては二五六五年度國際參加に於ては二五六六年度國際參加に於ては二五六七年度國際參加に於ては二五六八年度國際參加に於ては二五六九年度國際參加に於ては二五七〇年度國際參加に於ては二五七一年度國際參加に於ては二五七二年度國際參加に於ては二五七三年度國際參加に於ては二五七四年度國際參加に於ては二五七五年度國際參加に於ては二五七六年度國際參加に於ては二五七七年度國際參加に於ては二五七八年度國際參加に於ては二五七九年度國際參加に於ては二五八〇年度國際參加に於ては二五八一年度國際參加に於ては二五八二年度國際參加に於ては二五八三年度國際參加に於ては二五八四年度國際參加に於ては二五八五年度國際參加に於ては二五八六年度國際參加に於ては二五八七年度國際參加に於ては二五八八年度國際參加に於ては二五八九年度國際參加に於ては二五九〇年度國際參加に於ては二五九一年度國際參加に於ては二五九二年度國際參加に於ては二五九三年度國際參加に於ては二五九四年度國際參加に於ては二五九五年度國際參加に於ては二五九六年度國際參加に於ては二五九七年度國際參加に於ては二五九八年度國際參加に於ては二五九九年度國際參加に於ては二六〇〇年度國際參加に於ては二六〇一年度國際參加に於ては二六〇二年度國際參加に於ては二六〇三年度國際參加に於ては二六〇四年度國際參加に於ては二六〇五年度國際參加に於ては二六〇六年度國際參加に於ては二六〇七年度國際參加に於ては二六〇八年度國際參加に於ては二六〇九年度國際參加に於ては二六一〇年度國際參加に於ては二六一一年度國際參加に於ては二六一二年度國際參加に於ては二六一三年度國際參加に於ては二六一四年度國際參加に於ては二六一五年度國際參加に於ては二六一六年度國際參加に於ては二六一七年度國際參加に於ては二六一八年度國際參加に於ては二六一九年度國際參加に於ては二六二〇年度國際參加に於ては二六二一年度國際參加に於ては二六二二年度國際參加に於ては二六二三年度國際參加に於ては二六二四年度國際參加に於ては二六二五年度國際參加に於ては二六二六年度國際參加に於ては二六二七年度國際參加に於ては二六二八年度國際參加に於ては二六二九年度國際參加に於ては二六三〇年度國際參加に於ては二六三一年度國際參加に於ては二六三二年度國際參加に於ては二六三三年度國際參加に於ては二六三四年度國際參加に於ては二六三五年度國際參加に於ては二六三六年度國際參加に於ては二六三七年度國際參加に於ては二六三八年度國際參加に於ては二六三九年度國際參加に於ては二六四〇年度國際參加に於ては二六四一年度國際參加に於ては二六四二年度國際參加に於ては二六四三年度國際參加に於ては二六四四年度國際參加に於ては二六四五年度國際參加に於ては二六四六年度國際參加に於ては二六四七年度國際參加に於ては二六四八年度國際參加に於ては二六四九年度國際參加に於ては二六五〇年度國際參加に於ては二六五一年度國際參加に於ては二六五二年度國際參加に於ては二六五三年度國際參加に於ては二六五四年度國際參加に於ては二六五五年度國際參加に於ては二六五六年度國際參加に於ては二六五七年度國際參加に於ては二六五八年度國際參加に於ては二六五九年度國際參加に於ては二六六〇年度國際參加に於ては二六六一年度國際參加に於ては二六六二年度國際參加に於ては二六六三年度國際參加に於ては二六六四年度國際參加に於ては二六六五年度國際參加に於ては二六六六年度國際參加に於ては二六六七年度國際參加に於ては二六六八年度國際參加に於ては二六六九年度國際參加に於ては二六七〇年度國際參加に於ては二六七一年度國際參加に於ては二六七二年度國際參加に於ては二六七三年度國際參加に於ては二六七四年度國際參加に於ては二六七五年度國際參加に於ては二六七六年度國際參加に於ては二六七七年度國際參加に於ては二六七八年度國際參加に於ては二六七九年度國際參加に於ては二六八〇年度國際參加に於ては二六八一年度國際參加に於ては二六八二年度國際參加に於ては二六八三年度國際參加に於ては二六八四年度國際參加に於ては二六八五年度國際參加に於ては二六八六年度國際參加に於ては二六八七年度國際參加に於ては二六八八年度國際參加に於ては二六八九年度國際參加に於ては二六九〇年度國際參加に於ては二六九一年度國際參加に於ては二六九二年度國際參加に於ては二六九三年度國際參加に於ては二六九四年度國際參加に於ては二六九五年度國際參加に於ては二六九六年度國際參加に於ては二六九七年度國際參加に於ては二六九八年度國際參加に於ては二六九九年度國際參加に於ては二七〇〇年度國際參加に於ては二七〇一年度國際參加に於ては二七〇二年度國際參加に於ては二七〇三年度國際參加に於ては二七〇四年度國際參加に於ては二七〇五年度國際參加に於ては二七〇六年度國際參加に於ては二七〇七年度國際參加に於ては二七〇八年度國際參加に於ては二七〇九年度國際參加に於ては二七一〇年度國際參加に於ては二七一一年度國際參加に於ては二七一二年度國際參加に於ては二七一三年度國際參加に於ては二七一四年度國際參加に於ては二七一五年度國際參加に於ては二七一六年度國際參加に於ては二七一七年度國際參加に於ては二七一八年度國際參加に於ては二七一九年度國際參加に於ては二七二〇年度國際參加に於ては二七二一年度國際參加に於ては二七二二年度國際參加に於ては二七二三年度國際參加に於ては二七二四年度國際參加に於ては二七二五年度國際參加に於ては二七二六年度國際參加に於ては二七二七年度國際參加に於ては二七二八年度國際參加に於ては二七二九年度國際參加に於ては二七三〇年度國際參加に於ては二七三一年度國際參加に於ては二七三二年度國際參加に於ては二七三三年度國際參加に於ては二七三四年度國際參加に於ては二七三五年度國際參加に於ては二七三六年度國際參加に於ては二七三七年度國際參加に於ては二七三八年度國際參加に於ては二七三九年度國際參加に於ては二七四〇年度國際參加に於ては二七四一年度國際參加に於ては二七四二年度國際參加に於ては二七四三年度國際參加に於ては二七四四年度國際參加に於ては二七四五年度國際參加に於ては二七四六年度國際參加に於ては二七四七年度國際參加に於ては二七四八年度國際參加に於ては二七四九年度國際參加に於ては二七五〇年度國際參加に於ては二七五一年度國際參加に於ては二七五二年度國際參加に於ては二七五三年度國際參加に於ては二七五四年度國際參加に於ては二七五五年度國際參加に於ては二七五六年度國際參加に於ては二七五七年度國際參加に於ては二七五八年度國際參加に於ては二七五九年度國際參加に於ては二七六〇年度國際參加に於ては二七六一年度國際參加に於ては二七六二年度國際參加に於ては二七六三年度國際參加に於ては二七六四年度國際參加に於ては二七六五年度國際參加に於ては二七六六年度國際參加に於ては二七六七年度國際參加に於ては二七六八年度國際參加に於ては二七六九年度國際參加に於ては二七七〇年度國際參加に於ては二七七一年度國際參加に於ては二七七二年度國際參加に於ては二七七三年度國際參加に於ては二七七四年度國際參加に於ては二七七五年度國際參加に於ては二七七六年度國際參加に於ては二七七七年度國際參加に於ては二七七八年度國際參加に於ては二七七九年度國際參加に於ては二七八〇年度國際參加に於ては二七八一年度國際參加に於ては二七八二年度國際參加に於ては二七八三年度國際參加に於ては二七八四年度國際參加に於ては二七八五年度國際參加に於ては二七八六年度國際參加に於ては二七八七年度國際參加に於ては二七八八年度國際參加に於ては二七八九年度國際參加に於ては二七九〇年度國際參加に於ては二七九一年度國際參加に於ては二七九二年度國際參加に於ては二七九三年度國際參加に於ては二七九四年度國際參加に於ては二七九五年度國際參加に於ては二七九六年度國際參加に於ては二七九七年度國際參加に於ては二七九八年度國際參加に於ては二七九九年度國際參加に於ては二八〇〇年度國際參加に於ては二八〇一年度國際參加に於ては二八〇二年度國際參加に於ては二八〇三年度國際參加に於ては二八〇四年度國際參加に於ては二八〇五年度國際參加に於ては二八〇六年度國際參加に於ては二八〇七年度國際參加に於ては二八〇八年度國際參加に於ては二八〇九年度國際參加に於ては二八一〇年度國際參加に於ては二八一一年度國際參加に於ては二八一二年度國際參加に於ては二八一三年度國際參加に於ては二八一四年度國際參加に於ては二八一五年度國際參加に於ては二八一六年度國際參加に於ては二八一七年度國際參加に於ては二八一八年度國際參加に於ては二八一九年度國際參加に於ては二八二〇年度國際參加に於ては二八二一年度國際參加に於ては二八二二年度國際參加に於ては二八二三年度國際參加に於ては二八二四年度國際參加に於ては二八二五年度國際參加に於ては二八二六年度國際參加に於ては二八二七年度國際參加に於ては二八二八年度國際參加に於ては二八二九年度國際參加に於ては二八三〇年度國際參加に於ては二八三一年度國際參加に於ては二八三二年度國際參加に於ては二八三三年度國際參加に於ては二八三四年度國際參加に於ては二八三五年度國際參加に於ては二八三六年度國際參加に於ては二八三七年度國際參加に於ては二八三八年度國際參加に於ては二八三九年度國際參加に於ては二八四〇年度國際參加に於ては二八四一年度國際參加に於ては二八四二年度國際參加に於ては二八四三年度國際參加に於ては二八四四年度國際參加に於ては二八四五年度國際參加に於ては二八四六年度國際參加に於ては二八四七年度國際參加に於ては二八四八年度國際參加に於ては二八四九年度國際參加に於ては二八五〇年度國際參加に於ては二八五一年度國際參加に於ては二八五二年度國際參加に於ては二八五三年度國際參加に於ては二八五四年度國際參加に於ては二八五五年度國際參加に於ては二八五六年度國際參加に於ては二八五七年度國際參加に於ては二八五八年度國際參加に於ては二八五九年度國際參加に於ては二八六〇年度國際參加に於ては二八六一年度國際參加に於ては二八六二年度國際參加に於ては二八六三年度國際參加に於ては二八六四年度國際參加に於ては二八六五年度國際參加に於ては二八六六年度國際參加に於ては二八六七年度國際參加に於ては二八六八年度國際參加に於ては二八六九年度國際參加に於ては二八七〇年度國際參加に於ては二八七一年度國際參加に於ては二八七二年度國際參加に於ては二八七三年度國際參加に於ては二八七四年度國際參加に於ては二八七五年度國際參加に於ては二八七六年度國際參加に於ては二八七七年度國際參加に於ては二八七八年度國際參加に於ては二八七九年度國際參加に於ては二八八〇年度國際參加に於ては二八八一年度國際參加に於ては二八八二年度國際參加に於ては二八八三年度國際參加に於ては二八八四年度國際參加に於ては二八八五年度國際參加に於ては二八八六年度國際參加に於ては二八八七年度國際參加に於ては二八八八年度國際參加に於ては二八八九年度國際參加に於ては二八九〇年度國際參加に於ては二八九一年度國際參加に於ては二八九二年度國際參加に於ては二八九三年度國際參加に於ては二八九四年度國際參加に於ては二八九五年度國際參加に於ては二八九六年度國際參加に於ては二八九七年度國際參加に於ては二八九八年度國際參加に於ては二八九九年度國際參加に於ては二九〇〇年度國際參加に於ては二九〇一年度國際參加に於ては二九〇二年度國際參加に於ては二九〇三年度國際參加に於ては二九〇四年度國際參加に於ては二九〇五年度國際參加に於ては二九〇六年度國際參加に於ては二九〇七年度國際參加に於ては二九〇八年度國際參加に於ては二九〇九年度國際參加に於ては二九一〇年度國際參加に於ては二九一一年度國際參加に於ては二九一二年度國際參加に於ては二九一三年度國際參加に於ては二九一四年度國際參加に於ては二九一五年度國際參加に於ては二九一六年度國際參加に於ては二九一七年度國際參加に於ては二九一八年度國際參加に於ては二九一九年度國際參加に於ては二九二〇年度國際參加に於ては二九二一年度國際參加に於ては二九二二年度國際參加に於ては二九二三年度國際參加に於ては二九二四年度國際參加に於ては二九二五年度國際參加に於ては二九二六年度國際參加に於ては二九二七年度國際參加に於ては二九二八年度國際參加に於ては二九二九年度國際參加に於ては二九三〇年度國際參加に於ては二九三一年度國際參加に於ては二九三二年度國際參加に於ては二九三三年度國際參加に於ては二九三四年度國際參加に於ては二九三五年度國際參加に於ては二九三六年度國際參加に於ては二九三七年度國際參加に於ては二九三八年度國際參加に於ては二九三九年度國際參加に於ては二九四〇年度國際參加に於ては二九四一年度國際參加に於ては二九四二年度國際參加に於ては二九四三年度國際參加に於ては二九四四年度國際參加に於ては二九四五年度國際參加に於ては二九四六年度國際參加に於ては二九四七年度國際參加に於ては二九四八年度國際參加に於ては二九四九年度國際參加に於ては二九五〇年度國際參加に於ては二九五一年度國際參加に於ては二九五二年度國際參加に於ては二九五三年度國際參